２０２０年8月１２日

天国という概念は多分キリスト教的な考え方と思える。天国は神と天使が住むところと言うものだろうか？人間が住める最高な場所は楽園というものだろうか？キリスト教では人間が死んで楽園に行くという考え方はない。もともと人間は楽園に住んでいたが、神より禁止されていた知恵の実を「蛇」にそそのかされて、食べてしまい、人間が知恵を持ってしまったため、神により楽園を追放されてしまった。このことで人間の寿命は短くなり、病気等現在人間が苦しんでいる諸々のことが生じたといわれている。ただこのことは私にとっては疑問の残るところである。なぜかというと人間は楽園で何も考えないで生きていくことが良しとされ、人間は神に反抗する、というより世界に擬問を持つことが罪悪とされていることである。本来人間は何の疑問を持たず楽園で快楽を謳歌することがよしとされ、現在の人間の姿は忌むべきものとされている。人間はこうした原罪というのだろうか、もともと罪深きものなので常に悔い改めた生き方をしなさい、と説いている。本当に人間は何も考えずに生きることがいいのだろうか？ 一方仏教はどうだろうか！キリスト教の楽園にあたるものは、極楽浄土なのかもしれない。ただこの極楽に行くには人間は死んでからしか行けない。また普通は一般の人間でも仏教でいう輪廻転生を解脱できたものしか行けないといわれている。ただこの極楽浄土では人間も行ける場所であると同時さらに修行を重ねるとキリスト教の天国にあたる仏国土に行くことができるところともいわれている。つまり極楽浄土は人間も住んでいるし、修行僧も住んでいるところである。輪廻転生を続ける人間にとっての最高の住まいは来世の天道という場所と思えるが、これはまだキリスト教の楽園からは程遠い。楽園に近いのはやはり極楽浄土となるのだが、人間にとって解脱できることが条件となりなかなか難しい。ただキリスト教と違って人間はもともと煩悩を持ったものであるといわれており、キリスト教でいう原罪を持ったものではない。いわば人間が煩悩を持つことは肯定されている。できる限りこの煩悩を克服することが求められていることで、日々の生き方を悔い改めることを求められていることは、キリスト教と似ているが、先に言ったように人間が煩悩を持った存在であることを肯定している点が、キリスト教の最初から人間は罪を持った生き物であるという点が違うのではないかと思われる。

今回取り上げたのは、こうしたキリスト教と仏教の違いを述べたかったわけではない。すなわちこうした楽園、あるいは極楽というイメージは現在の人間社会でも可能なのではないかと思っている。というのは例えば衣食住に限って言えば、人間は働かなくても食糧が得られ、着るもの、住まいも手に入れられる状況になりつつあるということである。日本国憲法では人間は最低限の暮らしができることが保証され、国はこれを実行することが求められている。多分今年は世界的な天候不順により、食糧委不足が差し迫った問題となるだろう。今日コロナ問題で騒いでいるが、世界的な食糧不足がもっと重要な事柄になって行くと思う。世界各地の食糧供給地が不作となっており、日本は食糧の大半を輸入で賄っているが、今は多分金を払っても食糧を入手できない状況が差し迫っていると思われる。今政府は何も考えていないがどうするのだろう。輸入だよりではなく国内で自給することを考えるだろうが、多分無理だろう、可能としても今の人口を養うため、農地の増加、作業人口の増加等を見込んでも、ここ数十年はかかるだろう。今の人口を支えるのはすでに無理なのかもしれない。当然穀物を飼料にしている畜産も不可能となるだろう。ただこれも時間はかかるが、穀物の工場生産、人工肉の開発など、日本の科学技術力をもってすれば可能かもしれない。これとても時間がかかる。天候に左右されない穀物生産等は今後の重要な課題となるだろう。こうしたことで人間にとって働かなくとも必要最小限の食糧が得られることは可能となるのではないかと思える。水の豊富な日本でも水不足に備えて海水の真水化も可能であろうし、衣食住はほぼすべて働かなくとも手に入れることは近い将来可能となるだろう。またこうした技術は重要な日本の輸出資源にもなり、まさにこれこそが日本が世界に貢献できる最も重要な事項となると思われる。世界には現在でも食糧不足、水不足な国は多い。多分武器を開発するよりも、世界貢献ができる手段と考えられる。このことを、国を挙げて考えなければならないのに多分政府は何も考えていない。食糧不足は差し迫っていると思えるのに！

一方で、実はこれが本題なのだが、人間は働かなくても生きられる状況になったら何をするのだろうか？多分科学技術が進んで AI を中心とした社会が形成されていく中で、我々は何をすればいいのだろうか？過去にはヨーロッパ人はアメリカ大陸を発見して、アメリカの開拓ブームがあり、先住民族の迫害なども交え、アメリカはこれに邁進した。多分こうした人類にとっての大きなイベントは、今は宇宙開発しかないのかもしれない。今回は少し長くなったので、こうした問題提起をしてとりあえず筆を置く。次回はさらに我々は今後どういう生き方をすればいいのかという問題に直面するのだろう。